

テーマ

韓国ファミリービジネスは 生き残れるか

適用
分野

経済政策、韓国経済、
韓国金融、韓国財閥

研究
名称

韓国ファミリービジネスの淘汰と生き残り
<SKグループを中心に>

氏名
所属

高 龍秀 教授
全学共通教育センター

内容

●特徴

1997年の通貨危機以降、韓国の財閥は厳しい試練に直面している。淘汰の時代になってSKグループも求心力を失いつつある。

●研究内容

SKグループは1953年に鮮京織物を母体として発足したがその後、繊維→化繊→化学・石油と拡大を進め、情報通信分野にも多角化することで上位5大財閥の地位に上昇し、建設・海運も取り込み、情報通信事業とエネルギー事業を戦略分野として事業拡張を進めた。ところが、2003年不正な株取引で会長などファミリーの身内から逮捕者を出すなどしてファミリービジネスとしての求心力を失い、外資の株買占めによる経営権をめぐる対立に陥った。

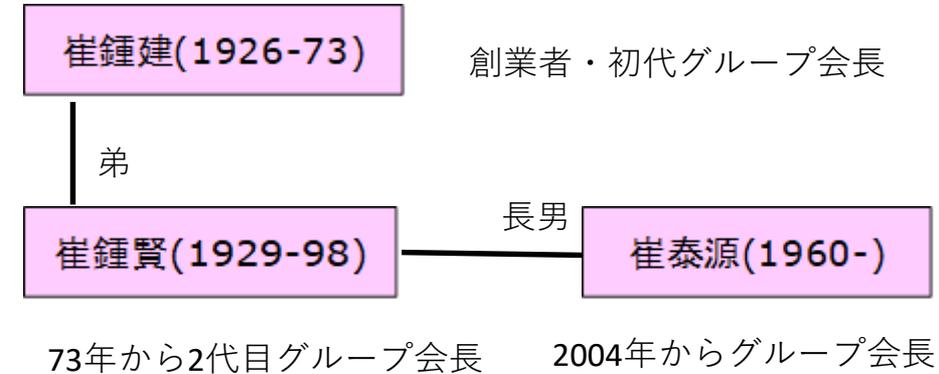
このことは、①財務改革の遅れ②会計不正・不正株取引などの不透明さ③外資による買収など現在の財閥が抱える問題点を典型的に示している。

ファミリービジネスとして財閥が生き残るには、①経営革新により高収益事業の構築と負債の処理②ガバナンスや経営透明さの向上③次世代への円滑な

継承と外資に対抗しての所有支配の維持—を実現する必要がある。

SKグループは高収益企業を抱えながらも他部門での拡張路線が財務体質を悪化させ、不正による求心力の低下を招き、外資との経営権紛争が続く厳しい状況下に置かれている。SKの事例で見る通りファミリービジネスとしての財閥が生き残るには財務改革とガバナンス改革が必須であり、それが出来なければ生き残りはきわめて困難である。

SKグループにおける歴代グループ会長



キーワード

ファミリービジネス、韓国財閥

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究